

# 中国の新人口政策について

## China's New Two-child Policy

尹 豪 (福岡女子大学)

Yin Hao

Fukuoka Women's University

[yinhao@fwu.ac.jp](mailto:yinhao@fwu.ac.jp)

中国国家统计局の「2015年国民経済と社会発展統計公報」(2016年2月)によると、2015年末中国(大陸)の総人口は13億7,462万人であり、65歳以上人口は1億4,386万人で、高齢化率は10.5%に達している。2015年の出生人口は1,655万人で(出生率は12.04%)、死亡人口は975万人(死亡率は7.11%)で、人口増加数は680万人(自然増加率は4.96%)となっている。

中国では「計画生育」という独特の人口抑制政策が実施された結果、出生率が持続的に低下し、少子高齢化が進みつつある。2012年に初めて生産年齢人口の減少が現われたことを踏まえ、近年には出生性比の不均衡問題と急激な少子高齢化問題を背景に、人口抑制政策の緩和を主張する動きが活発になった。そして、経済社会の持続的発展のためには、人口の数量を抑制する政策から人口の構造を調整する政策への転換が求められるようになったのである。

その結果、2013年11月「計画生育の基本国策を堅持し、片方が1人っ子である夫婦の場合2子の出産ができる政策」が始まった。つまり、夫婦の片方が1人っ子である場合、第2子の出産が認められる方針が確定され、各地で順次に実施されるようになった。「単独両孩」政策と呼ばれるこの緩和策が実施されて2年あまりになるが、この政策の全体的な効果はそれほど現れていないようである。たとえば、近年の出生人口推移をみると、2014年は前年より47万人出産が増えているが、2015年には前年よりむしろ32万人減少している。

そして、2015年末中国では大きな政策転換を行ない、「全面両孩」という新しい人口政策の実施に踏み切ったのである。「全面両孩」政策というのは、すべての夫婦に子供2人の出産を全面的に認めるという内容である。そして、直ちに「人口と計画生育法」の修正を行ない、2016年1月より全国で実施されることになった。これは、1組の夫婦が子供2人を持つことが一般的に認められることを意味し、1980年代初めから実施されたいわゆる「一人っ子政策」の終了と新しい人口政策のスタートである。